

「2022年度中国・浙江大学スプリングスクール（オンライン）派遣参加報告書」

京都大学工学部1年 竹村和菜

プログラムに参加する前までは、留学、特に語学留学やオンライン留学ではどのようなことをするのかよくわかっていませんでした。今回のプログラムではあくまで一例だとは思いますが、語学留学やオンライン留学とはどのようなものか感じる事ができたというのが大きな変化かと感じます。まず、授業について、私のクラスでは中国語で行われたことが驚きでした。必死に知っている単語を探しながら聞いていたのでとても疲れましたが、よい勉強になりました。もう一つ驚きだったのは、使われている言語以外は日本で受ける語学の授業と大きく変わらなかったことです。これは良いギャップでした。留学先の語学の授業では何か特別な方法で言語を学ぶのだろうと勝手なイメージを抱いていましたが、そういうわけではなく、日本でも言語を十分に学ぶことができると再認識しました。このことから語学学習に対する意欲が一段高まりました。

また、今回のプログラムの授業はすべてオンラインで行われました。オンラインでの留学、授業についてもよく知らなかったため、大きな学びになりました。良かった点として、実際に声を出しながら授業が受けられることを感じました。対面での授業では、発言する時間以外は静かに聞いているだけだけれど、オンラインなら新出単語など、先生が言った後にまねして言うことができるので習得しやすかったように感じます。それに対して難しかった点としては、授業に集中しにくかったこと、ほかの生徒と交流があまりできなかったことがありました。特に前者について、以前はオンラインも含め留学したら努力しやすい環境がありそれに任せれば語学力が伸びていくと想像していました。しかし実際にはそうではなく、留学でも日本で学ぶのと同じく授業に集中したり授業外でも予習復習をしたりと、自分での努力が欠かせないと感じました。この経験から、日本で語学だけでなくそのほかの学習に関してもモチベーションが高まったと同時に、次海外留学をしたら言語だけでなくそのほかの面でいかに成長することができるかを重視したいと考えるようになりました。例えば、言語自体を学ぶのではなく、日本である程度まで高めた言語力を使って何か別のことを学んだり、実際に働いたりボランティアをしたりといった形の留学をしてみたいという気持ちが強くなりました。

2週間という短い期間でしたが、自分の価値観が少し変わるような大きな経験となりました。